

令和3年11月19日  
(2021年)

第三学年保護者の皆様へ

吹田市立第三中学校  
校長 上西 創司

## 令和3年度 全国学力学習状況調査の分析について

本年度、3年生を対象として「令和3年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と数学に限られます。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった3年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

### 1. 教科に関する調査結果の分析

#### 国語

##### 《結果の概要》

- ・学習指導要領に示されている「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に基づき、全体を視野に入れながら出題されていた。
- ・「話すこと・聞くこと」の領域では、ほとんどの問題で全国値を下回った。
- ・「書くこと」の領域では、選択式の問題は全国値とほぼ同じだったが、記述式の問題は下回った。
- ・「読むこと」の領域では、すべての問題で全国値を下回った。
- ・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域では、漢字を正しく読む問題は全国値とほぼ同じで、言葉の正しい意味を選択する問題では全国値を上回った。だが、適切な敬語を選択する問題では全国値を下回った。
- ・「短答式」「記述式」の問題形式では、無回答率がひじょうにたかい。全国値を上回った。

##### 《課題と今後の取組》

- 「話すこと・聞くこと」の領域では、話し合いの話題や方向を捉えることはできているが、適切な発言について考えることに課題がある。「書くこと」の領域では、文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えを記述する力に課題がある。「読むこと」の領域では、文脈の中における語句の意味を理解したり、場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解したりすることに課題がある。また、文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつことに課題がある。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、相手や場に応じて敬語を適切に使うことに課題がある。
- 記述式の問題の無回答率が全国値を上回ったことから、自分の考えを表現していく指導が必要であると考え。自分の考えをもつためには、普段の授業から、自分が理解したことを他者に説明したり、他者の考えやその根拠などを知ったりすることが必要であるので、そのような活動を取り入れていく。また、自分の考えを相手に伝えることができるように、目的や意図に応じて読みやすく分かりやすい文章を書く活動を取り入れていく。

#### 数学

##### 《結果の概要》

- ・調査の内容としては、学習指導要領における、「数と式」が5問、「図形」が4問、「関数」が3問、「資料の整理」が4問と各領域についてバランスよく出題されていた。
- ・「関数」の領域では、すべての問題で全国値をやや下回った。「数と式」の領域では、ほぼすべての問題で全国値をやや上回ったが、数量の関係を二元一次方程式で表す問題は、全国値を下回った。
- ・「資料の活用」の領域では、ほとんどの問題で全国値をやや下回った。
- ・「図形」の領域ではすべての問題で全国値を下回った。
- ・無回答率がすべての問題で全国値をやや上回っている。特に、記述式の問題では全国値を上回っている。
- ・選択式の問題の正答率が全国値をやや下回った。
- ・記述式の問題の正答率は、全国値とほぼ同じである。

##### 《課題と今後の取組》

- 「図形」の領域では、図形の性質を考察する場面において、筋道を立てて考えることや統合的・発展的に考察し、新たに見出した事柄を説明することに課題がみられる。
- 説明を求められる問題の無回答率が全国値を上回っていることから、普段の授業や定期テストに説明を求める問題を取り入れていく。
- 「関数」の領域や「数と式」の領域の関係を見出す問題の正答率が全国値をやや下回っていることから、規則性や、関連性について考える活動を取り入れていく。

## 「生徒質問紙」に関する調査の結果

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査である。質問は全部で 69 問であったが、ここでは特徴的な結果が出た質問に関してのみ取り上げている。

### 《基本的な生活習慣》

- ・「就寝時刻がいつも同じであるか」という質問においては、全国値を下回ったが、「起床時刻がいつも同じであるか」という質問においては、全国値をやや上回った。

### 《家庭生活》

- ・「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」に対する肯定的回答率は、全国値をやや下回った。
- ・「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式ゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか」について、「4時間以上」と回答している割合は、全国値を上回っている。この課題解決のために、デジタル・シティズンシップ教育に取り組み、生徒が自分自身の生活を見つめ直し、ウェルビーイングの視点からメディアを自分にとってバランスよく利用することについて考える機会を増やしていく必要がある。

### 《家庭学習等》

- ・「家で自分で計画を立てて勉強していますか」という質問においては、全国を下回っており、全くしていないと回答している生徒の割合は全国値を上回っている。
- ・「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)」に対する肯定的回答率は全国値をやや上回っている。

### 《学校生活・学校での学習状況》

- ・「学校に行くのは楽しいと思いますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対する肯定的回答率は全国値をやや下回っている。この課題解決のために「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」との認識が一層高まるよう、いじめ予防授業(主に道徳・特活)を通して、今まで以上に相手の立場に立って考えることを一緒に考えていく必要がある。
- ・「コンピュータなどの ICT 機器を使用し、他の生徒と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか」に対する肯定的回答率は全国を下回っている。現在、多くの教員が ICT を活用して授業を展開しているが、生徒たちの認知にいたっていない。さらに学校全体で ICT を使用した授業研究を進めていきたい。
- ・「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、コンピュータなどの ICT 機器を勉強のために使っていますか」に対する肯定的回答率は、全国値をやや上回った。

- ・「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」に対する肯定的回答率は、全国値を上回っている。ICT 機器の利用が増えれば、より一層、肯定的回答率は上がると予想する。
- ・「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」にたいする肯定的回答率は全国値を下回っていた。行事を通して、集団の中での自分の役割を考えさせられる指導をしていきたい。
- ・「生徒の間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え(自分と同じところや違うところ)を受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていましたが」に対する肯定的回答率は、全国値をやや上回っている。主に、道徳でお互いの考えを受け止めて、一人一人の考え方が異なることを感じており、道徳の研究推進校としての取組みの成果が表れている。

### 《地域とのコミュニケーション》

- ・「地域の行事に参加していますか」「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えたことがありますか。」という質問に対する肯定的回答率は全国値を下回っており、社会参画への意識が全国より低くなっている。

### 《自尊心》

- ・「自分には、よいところがあると思いますか」に対する肯定的回答率は全国値を下回っている。学校と家庭が連携し、子どもたちの自己肯定感を高めるために、日常生活の中で、自己有用感を感じることができるといえる機会をより多く持たせたい。
- ・「将来の夢や目標を持っていますか」に対する肯定的回答率は全国値を上回っている。
- ・「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」「人が困っている時は、進んで助けていますか」という質問においては、全国値をやや下回ったが、肯定的な回答をしている割合はほとんど全国値と同じである。

## 2. 今後の取組みについて

今回の調査によって判明した課題点は、本校の教育活動全体の工夫・改善に大いに参考となる資料ととらえ活用いたします。そして、「生徒一人一人に学習する喜びと意欲を養い、確かな基礎学力をつける」という本校の重点目標の推進に生かすよう取組みを進めてまいります。

ご家庭におかれましても、学習活動の基盤となる基本的な生活習慣(早寝・早起き、規則正しい食生活、家庭学習の定着など)の確立やお子さまの成長にとって不可欠なさまざまな生活体験を通して、「生きる力」を育てていただきますようお願いいたします。今後も家庭と学校と密接に連携を図りながら、教育活動を進めていきたいと思っておりますので、ご理解ご協力よろしくようお願いいたします。